

平成21年度第1回中国・四国ブロック エイズ治療拠点病院等連絡協議会のご案内

開催日時:平成21年8月21日(金)13時~17時
開催場所:鯉城会館 5階 サファイア(広島市中区大手町1-5-3)

プログラム

13:30~ 開会挨拶

広島県健康福祉局保健医療部長

広島大学原爆放射線医科学研究所教授 木村 昭郎

13:40~ 報告

「中国・四国ブロックのエイズ対策の実施状況について」

広島大学原爆放射線医科学研究所教授 木村 昭郎

広島県臨床心理士会 会長 内野 悌司

14:10~ 特別講演

演題「男性同性間のHIV感染予防とその介入について」(仮題)

講師 名古屋市立大学大学院 看護学研究科 教授 市川 誠一

15:50~ 症例検討会「見逃さないで!急性HIV感染症」

【報告者】

国立病院機構関門医療センター 総合診療科部長 佐藤 穰

国立病院機構福山医療センター 統括診療部長 坂田 達朗

広島大学病院エイズ医療対策室 齋藤 誠司

【座長】 県立広島病院 エイズ支援室長 竹内 啓祐

公開会議です、ご希望の方は直接会場までお越し下さい。(申込み不要)

目次:

平成21年度第1回中国・四国
ブロックエイズ治療拠点病院
等連絡協議会のご案内 1

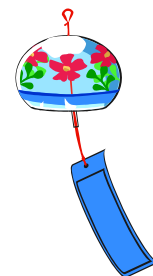
中四国エイズセンター
ホームページリニューアル 1

第23回抗HIV薬服薬指導
研修会のご報告 2

平成21年度第1回「HIV/AIDS
専門カウンセラー研修会」
に参加して 3

第3回中国四国地方エイズ
診療拠点病院医師のための
研修会 参加者募集のご案内 3

HIV検査の勧め シリーズ 4



中四国エイズセンター ホームページ リニューアル



私たちが運営しているウェブサイトを12年ぶりにリニューアルしました。情報提供の対象として、一般向けのHIV感染症・エイズについての解説や、感染予防よりもケア提供者の診断と治療そしてケアサポートに役立つことを心がけ、これまで約50万のアクセスを頂きました。

今後も、この方針を受け継ぎながら、読みやすい、役に立つ情報の提供を続けていきたいと思っています。アイデアやご希望をお寄せください。

(輸血部長・エイズ医療対策室長 高田 昇)

*「中四国エイズセンター」は、エイズ治療のための中国四国地方のブロック拠点病院を自称したものです。

第23回抗HIV薬 服薬指導研修会のご報告

7月19日、20日の2日間にわたり『第23回抗HIV薬服薬指導研修会』と『平成21年度第1回HIV/AIDS専門カウンセラー研修会』が合同でひろしま国際ホテルにて開催しました。



この研修会は対象である中四国地方の拠点病院の薬剤師だけでなく、全国からの参加希望者が集まる人気の研修会です。カウンセラー研修会と合同で開催する為、HIV拠点病院スタッフを含め、薬剤師・医療ソーシャルワーカー・心理カウンセラーの合計70名の参加となりました。

以下が合同の研修会プログラムです。

第23回抗HIV薬服薬指導研修会 平成21年度第1回HIV/AIDS専門カウンセラー 合同研修会 プログラム

1日目

- 13:15-講演「HIV感染症の治療」
東京三菱UFJ銀行健康センター 小田原隆先生
- 15:00-講演「東京都派遣カウンセラーとして思うこと」
東京都福祉保健局 神谷昌枝先生
- 16:00-HIV感染症の患者さんの話
- 16:50-症例検討「長崎大学病院の症例」
長崎大学病院薬剤部 薬剤師 嶺豊春先生
- 16:50-HIVカウンセリング事例検討(1)
広大病院エイズ医療対策室 喜花伸子先生他
- 19:00-演習「オリエンテーション」
「ロールプレイによる服薬指導の体験的学習」
広島大学大学院教育学研究科 石田弓先生
県立広島大学保健福祉学部 大下由美先生
- 21:00-終了

2日目

- 9:00-演習
「ロールプレイによる服薬指導の体験的学習」
広島大学大学院教育学研究科 石田弓先生
県立広島大学保健福祉学部 大下由美先生
- 12:00-閉会（薬剤師のみ）
- 13:00-HIVカウンセリングの事例検討(2)
広島大学大学院教育学研究科 品川由佳先生

次に、薬剤師研修会参加者からの全体を通しての感想をご紹介します。

様々な施設から薬剤師だけでなくカウンセラーさんも集まり意見交換をさせて頂いて大変勉強になりました。ロールプレイで普段自分がどう指導しているか客観的に見ることができ、カウンセラーさんの意見を聞いて気づく点が多かったです。また、実際にHIVの患者さんとお話することで副作用の辛さ、薬の飲みにくさなど、添付文書では得られない実際の体験を聞くことができ貴重な経験でした。

今回の参加は2回目になるのですが、初めて参加したときに比べ多少自分のHIV薬の知識が深まっていたこともあり、ますます理解できる内容でした。今後の服薬担当、チーム医療など業務に役立てたいと思います。



ロールプレイでは実際にして、ビデオで見て、意見を言ってもらおうと自分のためなところ、もっとのばしていくところが分かりとても勉強になりました。

当院ではHIVの患者様は今のところおられないためHIVに関しては全く勉強できておらず、研修の内容を理解できるかどうか、ついて行けるかどうか、とても不安な気持ちでの参加でしたが、基礎から分かりやすく説明してくださり、とても勉強になりました。また、HIVに限らず、すべての服薬指導にも応用できる内容も多く、今後の業務に明日からでも役立てていこうと思います。

何度もこの研修会に参加させて頂いていますが、毎回違ったことを学ばせて頂いています。今回の参加したことで、日頃から服薬指導で悩む場面での患者さんへの対応へのヒントや、アイセントレスの使用方法など、新しい知識や参考にさせて頂くことを多く学びました。患者さんの話は患者さんの本心を聞ける数少ない貴重な時間でした。ロールプレイは、毎回ですが大変楽しく前回の場面設定から2回目の実践まで、自分の対応を比べながら考えることができ、明日からの患者さんの対応に活かしていこうと思います。



平成21年度第1回「HIV/AIDS 専門カウンセラー研修会」 に参加して

7月19日、20日に開催されました、平成21年度第1回「HIV/AIDS専門カウンセラー研修会」にスタッフとして参加しましたが、大変勉強になる有意義な時間でした。

小田原先生の講義では、HIVの治療開始基準がどのように変わってきたかを丁寧にご紹介いただきました。

神谷先生の講義では、派遣カウンセラーを利用した医療機関スタッフの聞き取り調査の結果をご紹介いただきました。各職種がカウンセラーの働きをどう評価し、何を求めているかが見えてくる、実践に生かせる内容でした。

今年は、オリエンテーションとロールプレイを石田先生と大下先生が担当してくださいました。3つの服薬指導場面が設定され、6回のロールプレイが行われました。

実際にロールプレイが行われると、設定を読んだだけでは考えもなかった多様な課題が浮かび上がってきました。



私が入ったグループでも、「ディスカッションの時間が足りない」という声上がる程、様々な意見が出て来ました。カウンセラーも薬剤師も学びを深めることができたように思います。

心理福祉職セッション1日目では、当院の船附と私からHIV感染者への心理社会的支援について、それぞれ発表しました。参加者はHIVカウンセリングにこれから携わるといふ初参加の方も多かったのですが、とても熱心に質問をしてくださいました。

心理福祉職セッション2日目では、品川先生が4つの事例の初回面接を報告してくださいました。HIVカウンセリングの様々な側面をわかりやすく紹介して下さったように思います。



今回の研修会は、兒玉先生、内野先生に見守られながら、多くのスタッフがそれぞれに力を出し合い、参加者の意欲にも支えられ、人に恵まれた良い研修会になったと思います。

今後も、ブロック拠点病院のHIVカウンセラーとして、ブロック内のHIVカウンセラーの皆様に少しでもお役に立てればと思っています。

(エイズ医療対策室 臨床心理士 喜花伸子)

第3回中国四国地方エイズ診療拠点病院医師のための研修会 参加者募集のご案内

開催日：平成21年10月11日(日)11:20～17:40

場所：広島大学病院 入院棟カンファレンスルーム2

講演内容：「HIV感染症の基礎知識、最新の治療(HAART)」

講師：熊本大学エイズ学研究中心 病態制御分野教授 松下修三先生

講演内容：「日和見感染症の診断・治療と近年話題の疾患」

講師：国立大阪医療センター エイズ先端医療研究部 渡邊大先生

対象者：中国四国地方のエイズ拠点病院に勤務する臨床経験10年目前後までの医師。
診療科やエイズ診療の経験の有無は問いません。

募集要項やプログラムは、中四国エイズセンターのホームページよりご覧頂けます。
参加ご希望の方は、エイズ医療対策室(内線5581)までご連絡ください。

HIV検査の勧め シリーズ ～ HIV急性感染症を見逃さないで！～

HIV感染症の 自然歴とエイズ

エイズの指標疾患は23種類が定義されています【表1】。

これらはいずれもHIV感染の結果、免疫能が極度に低下したために発生する日和見感染症あるいは日和見腫瘍です。これらの疾患は放置すれば生命に危険があるものばかりです。

医療へのアクセスが容易で医療レベルも高い日本では、患者さんは医療機関を受診するでしょうし、死亡するまでエイズの診断に至らなかった例はあまり多くないと思われます。

【表1】 エイズ指標疾患

- (1) カンジダ症(食道、気管、気管支、肺)
- (2) クリプトコッカス症(肺以外)
- (3) コクシジオイデス症(①全身に播種したもの、②肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの)
- (4) ヒストプラズマ症(①全身に播種したもの、②肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの)
- (5) ニューモシスチス肺炎
- (6) トキソプラズマ脳症(生後1か月以後)
- (7) クリプトスポリジウム症(1か月以上続く下痢を伴ったもの)
- (8) イソスポラ症(1か月以上続く下痢を伴ったもの)
- (9) 化膿性細菌感染症(13歳未満で、ヘモフィルス、連鎖球菌等の化膿性細菌により以下のいずれかが2年以内に、2つ以上多発あるいは繰り返して起こったもの)、①敗血症、②肺炎、③髄膜炎、④骨関節炎、⑤中耳・皮膚粘膜以外の部位や深在臓器の膿瘍
- (10) サルモネラ菌血症(再発を繰り返すもので、チフス菌によるものを除く)
- (11) 活動性結核(肺結核又は肺外結核、ただし免疫不全があること)
- (12) 非定型抗酸菌症(①全身に播種したもの、②肺、皮膚、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの)
- (13) サイトメガロウイルス感染症(生後1か月以後で、肝、脾、リンパ節以外)
- (14) 単純ヘルペスウイルス感染症(①1か月以上持続する粘膜、皮膚の潰瘍を呈するもの、②生後1か月以後で気管支炎、肺炎、食道炎を併発するもの)
- (15) 進行性多巣性白質脳症
- (16) カボジ肉腫
- (17) 原発性脳リンパ腫
- (18) 非ホジキンリンパ腫(LSG分類により①大細胞型、免疫芽球型、②Burkitt型)
- (19) 浸潤性子宮頸癌(ただし免疫不全があること)
- (20) 反復性肺炎
- (21) リンパ性間質性肺炎/肺リンパ過形成:LIP/PLH complex(13歳未満)
- (22) HIV脳症(痴呆又は亜急性脳炎)
- (23) HIV消耗性症候群(全身衰弱又はスリム病)

HIV急性感染症

HIV感染症の自然経過は年余にわたるもので、エイズとはHIVの持続感染の末期の状態です。エイズになる前に患者が何らかの症状で受診するタイミングが何回かあります。



最初は「HIV急性感染症」です。HIVが体内に侵入して2～6週間後頃に所属リンパ節で爆発的な増殖が起こり、HIVが全身に広がっていくときの症状です。これは異物に接した免疫細胞が炎症性のサイトカインを出して、リンパ節や神経や腸管や皮膚などの局所症状と、発熱などの全身反応を起こすときです。

数日から2週間程度でこの症状は自然に沈静化されますが、HIVに特異的な免疫細胞が選択的に淘汰

され、慢性感染症になってしまいます。こうして特別な症状がない慢性期になりますが、他人への感染力は持っています。

後日HIV陽性とわかった人の病歴を調べると、かなりの人が医療機関を受診していますが、「伝染性単核球症」や「何らかのウイルス疾患」とされ、正しい診断を受けていません。



伝染性単核球症や無菌性髄膜炎などは、多くは自然に軽快します。しかしHIV感染症を正しく診断することは、薬物治療の対象になる上に感染拡大を予防する機会を提供することに繋がります。

(輸血部長・エイズ医療対策室長 高田 昇)

<ご意見募集>

ご意見やご希望がございましたら、

エイズ医療対策室(5351/5581)までお寄せください。